

令和4年度 全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果について

1. 全国学力・学習状況調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 全国学力・学習状況調査内容・実施時期

調査対象学年	第6学年	実施時期	令和4年4月19日
調査内容	○教科に関する調査：【国語】【算数】【理科】 ○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査 →児童に対する調査、学校に対する調査		

3. 全国学力・学習状況調査（6年生）の結果

（1）各教科区分の平均正答率

本校の平均正答率を全国と比較すると、国語及び算数は全国平均正答率を上回っています。理科は全国平均正答率をやや上回っています。

昨年度も、国語及び算数においては、全国・福岡県の平均を超える正答率を維持しており、学力の安定が見られます。今後は、さらに個に応じた学習を充実させていきます。

（2）児童質問紙の結果

本校の「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という質問項目について、肯定的に回答している児童の割合が全国・福岡県と比べてほぼ同じです。「授業以外に平日、どれくらいの時間勉強していますか」という質問項目について、「1時間以上」と回答している児童の割合も全国・福岡県と比べてほぼ同じです。今後は、学習習慣の確立に向けて、自分に合った目標の設定や自主学習と予習の取組、個に応じた指導と支援を行っていきます。

また、「将来の夢や目標をもっている」という項目において、肯定的に回答している児童の割合は全国・福岡県と比べてやや上回っています。「自分にはよいところがある」という項目においては、肯定的に回答している児童の割合が全国・福岡県と比べて上回っています。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という項目において、肯定的に回答している児童の割合は全国・福岡県と比べてほぼ同じです。「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか」という項目において、肯定的に回答している児童の割合は全国・福岡県と比べてやや上回っています。

このように子供たちの自己肯定感(自分に対する肯定的な意識)は高い傾向にあり、将来を見据え地域や社会をよりよくしようとしたり、自分自身や生活を改善したりしていこうという意識がうかがえます。

4. 福岡県学力調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童の学力の状況をきめ細かく把握・分析し教育及び教育施策の成果と課題を検証して改善を図る。
- 各市町村教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し改善を図るとともにその取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持向上を図る。
- 各学校が児童の学力の状況を把握し、児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

5. 調査内容・実施時期

調査対象学年及び調査内容	第5学年 国語・算数
実施時期	令和4年6月28日

6. 福岡県学力調査（5年生）の結果

本校の平均を県平均と比較すると、国語・算数ともに福岡県平均を上回っています。昨年度と同様に、県を超える平均を維持し、特に算数の伸びが見られます。今後ともつまずきのある単元や領域を分析して全学年の授業改善を行い、さらに学力の定着を図っていきます。

7. 課題克服に向けての学力向上の方策

(1) 学力面に関して

- ☐ 考えをつくる・書く・話し合う活動の日常化を図ります。どの教科においても日々の学習指導において、根拠を基に自分の考えをノートにしっかり書いたり、友達の考えと比べて説明したり、友達と話し合ったりする場面を仕組んでいきます。また、授業の最後に振り返る時間を設定し、自他の学びを認め合うとともに、分かったことを自分の言葉でまとめる場面を仕組み、「書く力」や「考えを整理する力」を鍛えていきます。
- ☐ 国語については全学年で学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読み書きできるように、定期的に実態把握をし、個への指導と支援を行い、確かな言語力の育成に取り組みます。
- ☐ 算数については、自分の考えを式や言葉で表現したり説明したりする場を授業に位置づけて、「考える力」や「表現力」を伸ばします。さらに、正答率の低かった領域の過去問題に取り組んだり、本年度の該当学年での指導を工夫したりしながら、解き方や考え方の解説を行って習熟を図ります。
- ☐ どの学年においても基礎的・基本的な学力の定着を図ります。また、これまで行ってきた「学習規律」「学習用具」の取組についても、全校で徹底していきます。

(2) 生活面に関して

- ☐ 子供たちのよさやがんばりを承認・称賛し、自己肯定感や自己有用感をさらに高めます。
- ☐ 特別活動や道徳科の学習を通して、よりよい人間関係づくりの基盤を培い規範意識を高めます。

(3) 家庭学習に関して

- ☐ 定着を図る「復習」に加えて、全校で発達の段階に応じた自主学習や予習を宿題に出す取組を行い、振り返ったり見通しをもったりする学習の習慣をつけます。
- ☐ 保護者の皆様には、家庭学習についての関心を高めてもらうために、日々の家庭学習への声かけと家庭学習頑張り週間へのご協力をお願いします。
- ☐ 「考える力」を伸ばすために活用力の問題を2年生以上で週末課題に出すなど課題の内容を充実させます。特に5・6年生は、活用力を高めるための国語・算数の応用問題に取り組めます。

(4) 職員に対して

- ☐ 校内で学び合いを重視した指導法やICTを活用した指導法について、研修を深めます。
- ☐ 学力向上や生徒指導に関する研修をし、全職員でその研修を生かした取組を実践します。
- ☐ 調査結果の分析から児童のよさと課題について共通理解を図り、交換授業や高学年での一部教科担任制を実施する等、学級間格差をなくす取組を進め、学力を向上させるという職員の意識を高めます。

学力調査の結果は全ての学力を示すものではなく、学力の特定の一部です。この結果を活かし、本校の重点目標である「自分らしさを磨き、進んで自己表現ができる子供の育成」の達成に向けて取り組んでまいります。